

様式 F - 7 - 2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

1	4	6	0	3
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 奈良先端科学技術大学院大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成26年度～平成28年度
5. 課題番号

2	6	7	5	0	0	6	9
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 理科教員養成に用いるELSI教材の開発

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
3 0 5 6 9 2 3 1	カワカミ マサヒロ 川上 雅弘	教育推進機構	特任准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

本研究では、中学校および高等学校の理科教育における倫理的・法的・社会的課題（ELSI）の扱い方の実態を明らかにしながら、生命科学の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）をテーマにした教員研修教材の開発を目指して取り組んだ。前年度までに行った中学校及び高校の理科教員を対象に行った理科指導に関する教員の意識調査の分析結果を踏まえて、本年度は幹細胞研究に関する生命倫理をテーマに、教員研修にも用いることを想定した教材を完成させた。また大学生を対象に、この教材を用いた研修プログラムの試行を実施した。研修プログラムの試行の際には、その前後に、再生医療や幹細胞研究に対する認識を調査し、受講前後の変化を調べた。その結果、受講後は再生医療の推進に対する態度が少し慎重傾向に変わること、また、受講前は、再生医療を実施した場合のリスクや費用への関心が高かったが、受講後は事故が起こった際の責任の所在や事故が起こった際の対応が整っているかなどの体制、そして国の政策や制度への関心が高まる傾向が見られた。このように、再生医療や幹細胞に関する内容を教える際、開発した教材を用いた教育プログラムを採用して実施すると、研修プログラムへの参加前後で、参加者の着目する内容の視点に変化が見られることが示された。このことは、研修プログラムによって、受講者が再生医療の専門的内容やELSIの理解が進み、考える内容が変化した結果であることが示唆される。

10. キーワード

- (1) 科学コミュニケーション (2) 科学教育 (3) ELSI (4) 教材開発
 (5) _____ (6) _____ (7) _____ (8) _____

(注)・印刷に当たっては、A4判（縦長）・両面印刷すること。

(1 / 3)

11. 研究発表

〔雑誌論文〕 計(0)件/うち査読付論文 計(0)件 (最終年度分)
 /うち国際共著論文 計(0)件 (最終年度分) /うちオープンアクセス 計(0)件 (最終年度分)

著 者 名		論 文 標 題				
雑 誌 名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)						
オープンアクセス						

〔学会発表〕 計(1)件/うち招待講演 計(0)件 (最終年度分) /うち国際学会 計(0)件 (最終年度分)

発 表 者 名	発 表 標 題	
川上雅弘, 水町衣里, 加納圭, 遠山真理, 和田濱裕之	高校生や大学生に幹細胞研究の理解を促し議論する教育プログラムの開発	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
第16回日本再生医療学会総会	2017年03月07日 ~ 2017年03月09日	仙台国際センター (宮城県仙台市)

〔図書〕 計(0)件 (最終年度分)

著 者 名	出 版 社	
書 名	発行年	総ページ数

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件 (最終年度分)

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件 (最終年度分)

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

13. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計(0)件 (最終年度分)

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

14. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

(1) 国際共同研究：-

15. 備考

--